

不登校への組織的な対応と、ＳＣ面談を活用した登校支援

不登校生徒の状況

対象の中学校 3 年生は、2 年生 2 学期まで通常の学級に登校していたが、3 学期から不登校状態になった。生活リズムの崩れ、スマートフォンへの依存があり、精神面で不安定である。人間関係において妥協ができない完璧主義的な傾向があるが、教員との話し合いを重ねて心身の安定を図っている。

具体的な取組

○生徒意識調査（アンケートの実施）

学期ごとに学校や授業に対する生徒の思いを把握するアンケート及び肯定的意見の割合を予想する教員対象アンケートを実施した。結果を踏まえ、学校生活全般を振り返り、生徒が安心して過ごせる「居場所づくり」に力を入れ、不登校の未然防止に努めた。

○不登校対応研修会による理解推進

全教職員に対し、不登校への対応について、校内研修会を定期的実施した。未然防止のために生活指導の視点による学習指導や行事の取組の充実、安心・安全な学級づくりを重視した。また、教育相談部会を中心に、早期支援、長期化への組織的な対応を推進した。

○教育相談部会による支援の充実

特別支援教育コーディネーターを中心に週 1 回、生徒の情報交換及び実態把握を行い、関係機関との連携を含めた支援策について検討した。支援の経過報告から更なる方策へと充実させた。



○ＳＣとの連携

不登校生徒に対し、ＳＣによる定期的な面談を実施した。ＳＣとの面談日には、学級担任との面談や、放課後学習教室への参加等を促しながら、不登校生徒に対する個別の支援を広げている。



成果

校内研修会で不登校への対応について教員全員の理解を深めるとともに、生徒意識調査の分析結果から未然防止の取組を充実させた。教育相談部会で、関係諸機関との連携を含めた支援策を協議し、効果的に展開できた。週 1 回のＳＣとの面談をきっかけに、別室への登校を習慣化することができた。

課題

校内別室の機能を一層活性化させるには、生徒がいつでも利用できるよう、校内体制の整備が必要である。

校内不登校対応の迅速化と生徒に寄り添う個別支援について

不登校生徒の状況

対象の生徒は中学校 1 年生で、小学校 3 年生の時に、学習に対する不安から登校を渋り始めた。入学後すぐに、欠席が続くようになり、5 月から週 1 回の放課後登校を始めた。様子を見ながら週当たりの登校日数を増やすことで継続的な登校ができるようになり、7 月には通常登校日数の半分以上を教室内で過ごせるようになった。

具体的な取組

○生徒意識調査（アンケートの実施）

学校や授業に対する思いを把握する生徒対象アンケート及び生徒の肯定的意見の割合を予想する教員対象アンケートを各学期に実施し、「魅力ある学校づくり」の工夫に生かした。安心して生徒が過ごせる学校風土づくりに力を入れ、新規不登校の未然防止につなげた。

○不登校対応研修会による理解推進

不登校への教員の意識を高め、理解を深められるように年間で校内研修会を実施した。早期、長期化への適切な支援を行うだけではなく、未然防止の基盤として安心・安全な学級づくりに力を入れた。日々の学習指導や行事の取組に生活指導の視点を持ち、「絆づくり」を行った。

○教育相談部会による支援の充実

校長、副校長が参加して週 1 回、不登校生徒の情報交換、状況把握を行い、学校体制や関係諸機関との連携等の支援策を検討して迅速な対応を行った。経過報告を随時フィードバックし、一人一人の支援の充実を図っている。



○生徒に寄り添う学級担任の個別支援

担任が生徒の心に寄り添うように接して、精神的な安定を図った。困りごとや興味・関心のある事柄を聞き取り、信頼関係の構築に努めた。

家庭学習のための課題を準備し、適正に提出物の評価を行った。分からない点には丁寧な解説を加え、学習への不安を抱かないように配慮した。

成果

不登校研修会により全教員の意識向上を図るとともに、各学期に生徒意識調査を実施し、未然防止のための「居場所づくり」、「絆づくり」の取組を充実させた。担任を窓口とした生徒に寄り添う個別支援や S C 面談から、別室の登校へとつなげることができた。

課題

校内別室指導支援員及び他の教職員による支援の充実、不登校生徒の居場所となる別室を毎日確保することが課題である。

校内における組織的な不登校対策と生徒の気持ちに寄り添う支援について

不登校生徒の状況

対象生徒は、小学校低学年の頃に不登校傾向となり、中学校入学後、1年生の時に、徐々に欠席が増え不登校になった。担任の定期的な電話連絡及び毎月2、3回の家庭訪問により、2年生から校内別室に週1回登校し始めた。担任、不登校担当の教員、校内別室指導支援員が心身の安定を図るように支援している。

具体的な取組

○生徒意識調査（アンケートの実施）

学期1回、年3回の学校や授業に対する生徒の思いを把握するアンケート及び肯定的意見の割合を予想する教員用アンケートを実施した。結果の比較分析により「魅力ある学校づくり」の取組を工夫改善し、生徒の安心感を高める「居場所づくり」を行った。

○教育相談部会による支援の充実

特別支援教育コーディネーターを中心に週1回生徒の情報交換、状況把握を行い、学校としての対応や関係諸機関との連携等の支援策を検討し、実践につなげている。支援による変容等の経過報告を適宜フィードバックして改善策の検討を行い、一層の支援の充実を図っている。

○不登校対応研修会による理解推進

全教職員の不登校への理解を深め、適切に対応できるよう、年間を通じた校内研修会を実施した。早期支援、長期化への対応だけではなく、未然防止のための学習指導や行事の取組の充実、また安心・安全な学級づくりの重要性を理解し、日々の教育実践に生かした。

○校内別室機能の活性化

教育相談部会で別室対応が適切と判断し、教室復帰前のステップに当該生徒、保護者の共通理解のもと利用決定する。自学自習を基本に不登校担当教員と校内別室指導支援員が支援している。状況に応じ、リモート授業を実施している。



成果

校内研修会により教員の意識向上を図り、不登校生徒の気持ちに寄り添う担任の絆づくりを徹底させた。生徒意識調査の分析結果から未然防止の取組を充実させた。教育相談部会でのSSW、教育相談所との連携を含めた支援策を協議し、効果的に展開した。

課題

校内別室は特別支援教室と兼用のため、利用できる曜日が制限される。別の曜日の不登校生徒の居場所を確保する必要がある。